

父ブッシュ大統領葬儀の象徴的意味——時代のけじめ

Greatchain

2018/12/07

12月5日に、アメリカ指導者層の大量検挙が行われるという予言は、はずれた。もっともこれは予言でなく、ホワイトハウス・インサイダーQの、謎めいた大量の情報の中にあったものである。次の可能性は17日だという。しかしこの予想は、当たらない方がよかった。もし当たっていたら、父ブッシュ大統領の葬儀が挙行できなかった。これは重要な儀式である。ビデオで様子を見てみると、その威儀を正した厳粛さは相当のものだった。これは一つの時代あるいは文化が過ぎ去り、新しいアメリカが始まるという、重大なけじめを意味するものである。これは、いわゆる「重しが落ちる」という心理的影響を与えるもので、父ブッシュにしかできない役割だった。かりに、父ブッシュでなく、子ブッシュやビル・クリントンが死んだとしたら、彼らにその役はできなかった。アレックス・ジョーンズの、この葬儀の中継を見ていると、彼は出棺の場面で、小さく「グッバイ、アメリカ」と呟いた。これは、「長いこと人民を苦しめてきた悪のアメリカ帝国が、これで終わった」という感慨を含んだものだった。

トランプの大統領就任式するとき、この老人は、トランプを遠くから認めて、手で首を切るしぐさをしてみせたようだ。それでもトランプは、もちろん主催者として出席した。彼も、アレックスと同じ思いだったであろう。何も知らない人々は、この2人の大統領を比べたとき、ブッシュは物静かで落ち着いた紳士であり、トランプは腰の定まらない軽挙妄動する男だと映るであろう。これは、トランプの置かれた事情を、全く知らないからにすぎない。彼は誠実でかつ有能な、しかも策謀に長けた政治家だ、とSGT Reportで強調する元CIA職員がいた。Qは、ホワイトハウスには、故意のニセ情報が必要なのだと言っていた。彼が何のために大統領になったのか、彼自身がわかり易く言っているのだから、これをそのまま新聞に大きく載せれば、人はそれをほぼ理解するか、少なくとも、国家そのものに何か重大な問題があるのだと思うだろう。しかしそれは載らなかった。そして人々は、アメリカで何の争いが起こっているのか、わからないでいる。

トランプはこう言っている——「私のやろうとしていることは、単なる政権担当の交代でも、あるグループから他のグループへ政権を移すことでもない。ワシントンDCから政権を奪って、あなた方人民の手に渡すことだ。」これは、トランプが、アメリカ人は自国の実情に、

全く無知ではないだろうという前提で言ったことである。しかし、全く無知な、自分がどう
いう国に住んでいるのか知らない人々が、相当数いたと思われる。それを主流メディアは利
用して、トランプを愚か者にした。

特に、わが国のように、政権与党が変わるとき、支持の理由として、「〇〇の方がよさそう
だから」という理由しかないような国では、トランプの言ったことの深刻さは想像できな
いだろう。それどころか、民主主義の国アメリカで、そういうことを言うのは、民主主義を破
壊するためだろうと、全く正反対のことを、ジャーナリストは想像した。現に、トランプ就
任後しばらくは、彼をファシストのように言うメディアがあった。

しかしわが国ではともかく、アメリカでは今、ようやく、トランプの真意と誠実さが民衆に
理解されてきて、支持者が急増しているようにみえる。無知だった人々は真実に目覚め、す
でに知っていた知識人は、これまでのように発言を恐れず、堰を切ったようにしゃべって
いる。これは、あくまでインターネット上での印象だが、多くの人々が、アレックス・ジョー
ンズのように、大声で怒鳴り、言語道断だとして、しゃべっている。おそらくこれには、父
ブッシュの死が拍車をかけるであろう。この葬儀は、時代を画するターニングポイントにな
ったであろう。

父ブッシュを頂点として、我々の時代にかかっていた、無言の、強力で、不気味で、恐ろし
い圧力は、どれほどのものだっただろうか？ 彼は 1991 年、米議会で、New World Order
という彼ら陰謀団の計画に、さりげなく触れ、その後、この計画の成功を疑わない米政治家
たちが、次々にこれを口にした。しかし、その後、その計画が途方もなく恐ろしいものであ
ることが、知れ渡ったために、この言葉を公に使う政治家はいなくなった。私がこれを、特
に不気味で恐ろしいものに感ずるのは、その同じ言葉が、ヴァチカンの地下室の生贄の儀式
で、強制的にそこに出席させられた、たった 12 歳の少女に対し、恐ろしい掟の言葉として
使われたのを、知っているからである。参照：「スヴァーリとの独占インタビュー（4）—
ヴァチカンにおける子供の生贄」 <http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160122.pdf>

さらに、ブッシュ父子と祖父のプレスコット・ブッシュという、3 代のブッシュ一族が、ア
メリカと世界全体に、どれほどの恐ろしい犯罪行為を行ったかは、計り知れない。これにつ
いては、次のいくつかの資料を読んでいただきたい：——

「アメリカのファシズム小史」

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/161023.pdf>

「ブッシュ家とナチスドイツとのつながり」

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160309.pdf>

「映像証拠：父ブッシュがモンサントと遺伝子操作を共謀」

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160311.pdf>

息を呑むような、これほどの犯罪と、それに繋がったさらに多くの、米指導者による犯罪や殺戮、そしてその欺瞞と隠ぺい、暗殺など、その後の長い時代が、ついに終わるためには、地球は、地響きを立てなければならないだろう。そしてこれには、我々の予想通り、「純粹悪」 pure evil という言葉が使われるようになり、そこから人は「サタン」「ルシファー」と言われる存在を、実在として認めるようになり、「サタン信仰者」という彼らの本質が暴かれるようになった。そしてこのすべては、あの SGT Report の早口の牧師が言う通り、神が、人間に対して、自分に目を向けさせるためであった。